DUNLOP NEXT CUP
ThreeBond 神戸シリーズ第 1 戦

開催日：4 月 2 日
開催地：神戸スポーツサーキット（兵庫県）
天候：晴れ

今年で 3 年目を迎えるダンロップネクストカップが、まずは神戸シリーズから開幕した。今季は、西日本は兵庫県・神戸スポーツサーキットを会場としたスリーボンド神戸シリーズ、東日本は千葉県・新東京サーキットを会場とした EXGEL 新東京シリーズとして、2 シリーズ、それぞれ 3 戦が開催され、8 月に岐阜県・フェスティカサーキット瑞浪で行われる IAME フェスティバル、さらに同じく瑞浪で開催される最終戦を合わせた全 5 戦でシリーズタイトルを競うこととなる。

今季からレースフォーマットも変更され、昨年までの 1 大会 2 レース制から、通常のカトレース同様の 1 大会 1 レース制に変更。ただし、全日本選手権同様に予選にもシリーズポイントを付与することとなった。また、マシンパッケージもビレル TIA シャシー、IAME リードジェットエンジンは変わらないものの、タイヤはダンロップのオールウェザータイヤ SL98 が供給されることとなった。

神戸シリーズは、今季から総合潤滑油メーカーの TreeBond が「タイトルスポンサーとなり、カラリングイメージも一新。中部、近畿、中四国など西日本を中心に 13 名のドライバーが集った。

5 分間計測で行われた QP では、ヨーロッパでのレース活動を終え、日本に拠点を戻した堀尾風允が、初めての神戸にも関わらず 45 秒台に迫る 46.045 でトップタイムをマーク。2 番手には神戸を地元とする津端剣心が 46.123 で続く。昨年からの継続参戦組では、ナチュラから神戸へと移ってきた松村浩之が 3 番手タイム。昨年の成績で今季全日本参戦のスカラシップを獲得している親川謙心が 4 番手タイムと続く

10 周の予選ヒートも、堀尾が好スタートからリード。2 番手に津端、3 番手松村、4 番手親川とスタート順通りのオーダーで周回を重ねていく。上位陣の順位は最後まで変動せず、堀尾が決勝 PP を獲得。津端が 2nd グリッドから逆転を期すこととなった。

迎えた決勝は 18 周。やはり堀尾が好スタートでトップを守ると、序盤のタイヤが冷えている状態で後続に若干のリードを築き、レースを優位に進めていく。2 番手には津端が続くが、序盤につけられた 1~2 秒ほどのビハインドがなかなか削れない。予選と異なる展開を見せたのは 3 番手争い。親川が松村をかわし 3 番手に浮上すると、それを追うように 5 番手スタートの氏家颯太郎も 4 番手に浮上。親川に接近していく。

トップの堀尾は、危なげなく周回を重ね津端の接近を許さない。津端も 3 番手争いからは距離を置き、上位 2 台は単独走行でレースを進めていく。一方、3 番手争いは地元の親川

に、普段は四国でレースに出場し、神戸は初めてとなる氏家が接近。終盤に逆転を果たし、氏家が 3 番手に浮上。そのまま親川を引き離し単独走行となる。上位陣の順位はそのまま固定され、開幕戦は堀尾が完ぺきな内容で優勝、予選&決勝のフルポイントを獲得した。2 位に津端、3 位に氏家が入った。

●堀尾風允
なかなか神経を使いました。みんなイコールコンディションだったので、いかにミスしないか、自分との戦いでした。難しいですが、その分楽しいです。第 2 戦ももちろん勝ちに行きます。

●津端剣心
2 位は悔しいですが、トップに仕掛けられなかったのが一番悔しいです。自分のペースもトップと変わらなかったのですが、前半で離れてしまった分が大きかったので、その差をなかなか縮められずに終わってしまいました。第 2 戦では、練習でも 1 周目 2 周目を大事にして、もっとタイムを上げるのを早くするように意識して挑みたいと思います。

●氏家颯太郎
難しいレースでしたが、周りのペースについてはいけていたので手応えはありました。うまく抜くことはできなかったですが、結果がよかったのでうれしいです。タイヤの空気圧も後半よりのセットにしていたので、後半勝負を考えていました。今回はスポット参戦で、土曜日にカートを借りて練習して、今日のレースを迎えました。また機会があれば挑戦したいです。